

一、  
うさぎおい  
兎 追ひしかの山、  
こぶな  
小鮒釣りしかの川、  
ゆめ  
夢は今もめぐりて、  
ふるさと  
忘れがたき故郷。

二、  
いか  
如何にいます、父母、  
つつが  
恙なしや、友がき、  
雨に風につけても、  
ふるさと  
思ひいづる故郷。

三、  
こころざしをはたして、  
かえ  
いつの日にか歸らん、  
ふるさと  
山はあをき故郷、  
ふるさと  
水は清き故郷。

大正3年(1914年)

『尋常小学唱歌 第六学年用』  
ふるさと  
故郷

作詞 高野辰之  
作曲 岡野貞一



【歌詞の意味】

1. (捕まえて食用にするために) 野兎を追ったあの山や、  
(同じく食用にするために) 小鮒を釣ったあの川よ。  
今なお心巡る思い出深き故郷よ。
2. 父や母はどうしておいでだろうか、  
友は変わりなく平穩に暮らしているだろうか。  
風雨(艱難辛苦の比喩とも)の度に思い出す故郷よ。
3. 自分の夢を叶えて目標を成就させたら、  
いつの日にか故郷へ帰ろう。山青く水清らかな故郷へ。



高野辰之

たかの・たつゆき

明治9年4月13日～昭和22年1月25日



岡野貞一

おかの・ていいち

明治11年2月16日～昭和16年12月29日